

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

July / 11 / 2014 # 16

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

- [1] 旬な話題、気になる話題
『Euphonium & Tuba Festival in Barcelona』
 - [2] Pepeのひとりごと
『コンクールでの発見』
 - [3] おすすめ動画
『Zigeunerweisen』
『Symphonic Variants J. Curnow, Pablo Mas』
 - [4] 演奏のヒント！
『音量の変化を出す』
 - [5] これを吹きたい！ ＊新トピック＊
『Sonata in F (Marcello)』 - 後編
 - [6] 編集後記
-

- [1] 旬な話題、気になる話題

『Euphonium & Tuba Festival in Barcelona』

今、スペイン・チューバ・ユーフォニアム協会主催の第1回フェスティバルに参加しています。
このフェスティバルでは、マスタークラス、コンクールの審査員、そしてソロのリサイタルをやらせてもらっていて、毎日忙しく過ごしています。

実は今、コンクールの審査の休憩時間にこれを書いています。
なんとか日本時間の今日中に発行できるといいのですが・・・（笑）。

またオフィシャル・サイトでもこのイベントのことは書いて
いこうと思っていますが、毎日とっても刺激的な日々を送っています。

今日は大会3日目。
日曜日の夜まで続きます。

リサイタルでいい演奏ができるように、しっかり準備しよう
と思います！！：)

[2] Pepeのひとりごと

『コンクールでの発見』

今スペインで、Euphoniumのソロ・コンクールの審査をしています。
ここ数年日本に住んでいて、改めてこちらにやって来てこうして
審査員として座って演奏を聴いていると、面白いことに気づきました。

それは、コンクールを受けている人の様子です。

こちらでは、ヒゲもいろいろあるし、いろいろなピアスを付けて
（男の子が）演奏している人がたくさんいます（僕が審査を担当した
のは、18歳以上の部です）。
なんだか、日本ではあまり見ませんよね??

もちろん大学生くらいになれば、ヒゲを伸ばしたりピアスをつけたり
などはやりたかったらできる環境なのに、そういう人って見ませんよね？
（特にクラシック音楽のコンクールでは）

これって、日本と欧米との大きな違いですよねぇ。
僕はその辺りすごく自由な考えなので、その人の作る音楽とその人の
その日の格好はあまり気にしませんが、きっと日本でやるといけない
でしょうねぇ（笑）。

・・・というか、日本人じゃなければ許されそうかな？日本人が
日本でやると嫌われちゃうんでしょうねぇ。

僕は興味がないからやらないけど、興味があったらやってるん
だろうなぁ（笑）。

以上、今回のコンクールの審査をして感じた、新しいことでした（笑）。

[3] おすすめ動画

『Zigeunerweisen』

https://www.youtube.com/watch?v=24RUy_y7Qig

今回はスペインの若いEuphonium奏者、Pablo Mas Ramonくんを紹介합니다。

まず1つ目は、サラサーテ作曲の「ツィゴイネルワイゼン」です。ヴァイオリンの超絶技巧の曲ですが、よくEuphoniumでも演奏される曲です（僕も演奏したことがあります。笑）。

『Symphonic Variants J. Curnow, Pablo Mas』

<https://www.youtube.com/watch?v=W9nJQNwBscw>

2つ目は、Euphonium吹きにとっては今や避けては通れなくなってきた曲、J.Curnowさん作曲の「Symphonic Variants」です。すごく長くて大変な曲なのですが（この動画はいろいろとカットされています）、よく吹いていると思います（しかもバンド伴奏で）。

けっこう前から僕はYouTubeで彼のチャンネルを登録して聴いていたのですが、実は今回のバルセロナでの大会の中でのコンクールにも彼は参加していて、いい演奏をして順調に先のラウンドに進んでいます。

実はこの曲は、今回のコンクールのファイナルの課題となっています。

彼は今後、かなり期待できる逸材です！！

[4] 演奏のヒント！

『音量の変化を出す』

演奏をする際、必ず僕たちが考えないといけないことの一つに音量があります。

この音量ですが、いい演奏をするためには、上手にコントロールする必要があります。

単純に言うと、大きな音と小さな音、あとその中間に位置する音量。そう、これだけ（笑）。

これを、いかに自由自在に扱えるようにするのか、が大切なんですよ。

音量をうまくコントロールするための練習方法を書いてみますね。

まず、4拍なんでもいいので音を伸ばしてみましょう。

そして次に、その4拍伸ばしている音を2種類の音量で吹いてみてください。

「最初の2拍がmf、次の2拍がf」というように。

その時、よ〜〜く自分の音を聴いて、音量が本当に2種類なのかを確認して下さい（大きくなっちゃったり小さくなっていったりしていないのかをちゃんとチェックしてくださいね）。

「同じ音量で音を伸ばすことができる」ということが前提ですので、まだそれができない人は、まずはひとつの音をまっすぐ伸ばし続けることができるように練習してみてくださいね。

それができるようになったら、今度はその2種類だった音量を3種類にしてみましょう。

*音量を変えるときにはレガートタンギングをしてみてください。そして、音量が変わるときにははっきりとその場所で確実に音量が変わることを確認しましょう。

このようにだんだんと音量の種類を増やしていく練習をしていくと、自分で思い通りに音量を使い分けられるようになっていきます。

あとは、一番大きい音量と一番小さい音量を決めて、その間に1つずつ音量の種類を増やしていく練習も、とても役に立ちますよ。3つに分けると6つに分けるとで、また感覚が変わってきます。

注意点は、一番小さい音／大きい音が、その間にいくつ音量が入ってきてても同じであること。

あと何段階あるのかを、自分の頭と体が共にわかっていること。

これらに気をつけながら、やってみてください。

この練習は経験と慣れだと思います。

うまくいきますように！！

[5] これを吹きたい！ *新トピック*

『Sonata in F (Marcello)』

今回は、もともとチェロの曲であるMarcello作曲の「Sonata in F」を取り上げようと思います。

中・高生でもソロ・コンクールなどで演奏するのにいい曲だと思うので、近い将来ソロのコンクールを受けてみたいと思っている人は、ぜひチェックしてみてくださいね！

全部で4楽章あるので、今回は1、2楽章を取り上げようと思います。

まずはじめに、僕はバロックの曲をやるときには、ピアノなどの低音を常に聴くよう心がけています。

練習の時に、ピアニストに左手だけを弾いてもらっての練習もしてみてくださいね（テンポの遅い曲も速い曲も）。

音程の感覚がなんとなくわかってきたりしますよ！：)

あとリピートをする場合は、2回目には積極的に装飾音符などを（センスよく！）入れて変化させていきましょう！：)

1楽章のはじめは、FからFまで1オクターヴ上がりますね。

その時、音程感を意識して確実に上がるようにしてみてください。

2拍目、表拍のCを、ちゃんと最初の音の5度上というのを意識して吹くだけでうまくいくと思います。

3小節目からのフレーズは、2拍目から3拍目にかけての同じ音Cの音程を少し気にしてみてください。

「歌いながら」吹くと、意外と同じ音程で吹いていない（吹けていない）ことがありますよ（笑）。

6小節目の3拍目のCの音、1拍目のFの音から譜面通りに下がっていくと音程が低くなることがあるので、オクターヴ下のFの音を意識しながら吹き進めて、最後、下のFの5度上のCという感覚で吹くと、音程をはめやすくなります。

7小節目も、1小節目と同じところに注意して吹いていきましょう。

9小節目、音の高低に合わせて吹いてしまうとフレーズラインが不安定になるので、拍の頭の音をつなげて、そのラインを歌いつなげていくようにすると安定しやすいと思います。

10小節目の2拍目、4拍目のCとBの音、最後まで貧弱にならないほうが、曲のテンションを保ちやすくなります。

踏ん張ってみてください！：)

12小節目の3拍目、16分音符すべての音を個々に吹こうとするとメロディーラインが上下に動きすぎるので、頭の中ではF、D、Bの音をとってってください。

そうすると、息のムダ使いも防げますし、4拍目のBの音も安定しやすくなると思います。

2楽章は、まずテンポ設定に気をつけましょう（4楽章も同じく）。

遅すぎると流れが作りにくいですが、逆に速すぎると何を吹いているのか聴いている人たちに伝わりません。

自分にとってのいいテンポを見つけていくのもとても大切なこと

です。

タンギングなどの関係であまり速くできない人は、ムリをしなくて吹けるテンポでやりましょう。その際、テンポ感を出して演奏するように気をつけてくださいね。

速くなくてもテンポ感を出すことができれば、Allegroの雰囲気を出すことはできますよ！

逆にタンギングなどで特に問題を感じない人は、ただ速いだけにならないようよく注意してください。

「流れ」があるかどうか、流れを作るにはどのように演奏すればいいのかをよく研究してみましょう。速く吹ける人は、意外とこのことを気にしないで「吹くだけ」になってしまうことが多いようです。

テンポ感につながるのですが、小節の1拍目に重さ（重心）を持っていくようにすると、流れが作りやすくなって前に進む感じができますよ。

そうすると、自然に1、2小節目の4拍目にあるようなシンコペーションも自然と重さが1拍目から4拍目に移動していくと思います。

フレーズごとにダイナミクス（音量）が変わっていきませんが、しっかりと大小の差が出るようにしましょう。

演奏では、自分の中ではしっかりさをつけているつもりでも、実際の音はあまり変わっていない、ということがよく起こります。録音などをして聴いてみるといいですよ。

ポイントとしては、音量の変わり目の「次の音量」だけを気をつけるのではなく、その直前の音量にも気をつけてみましょう。

例えばpからfに変わる場合、fに変わった時の音量だけを気をつけるのではなく、fに変わる直前の音量がちゃんとpのままでいられているのかを気にしてみてください。そうするとはっきりとダイナミクスの変化をつけることができますよ。

もう一つ、ダイナミクスの変化をつける際のヒントを。

16分音符などの細かい音符の場合、音価を長めに取るようにすると大きな音量の時も小さな音量の時も変化がよく付きますよ。

ダブルタンギングも、音価を長めに取ってできるようになるまでしっかり練習してみてくださいね。

次回は3、4楽章を取り上げようと思っています。

お楽しみに！

編集後記

なんとか今日中に発行できそうです！
携帯メールの人、夜の発行になってしまっていてごめんなさい。
寝てる人を起こしませんように・・・。

今スペインで、毎日すごく刺激的な日々を送っています。
あっという間に夜になり、また朝になりという感じでバタバタ
していますが、日曜日のソロ・リサイタルに合わせてしっかり
体調も整えていきたいと思っています。

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com